

活用Q&A

Q1

センサー導入にかかった期間はどのくらいですか？ また、選んだ決め手は何ですか？

展示会でいろいろ見て回り、フットワークが軽そうなメーカーに1度来社してもらい、私たちがやりたいことを説明したうえで提案をお願いした。施設のオープンまでの半年間、いろいろなメーカーと話し合いを続け、3カ月ほど前に3社に絞り込んだ。スマートフォン方式を採用したのは、まず便利なこと、建物の建設に合わせてネットワーク工事を行えば費用が抑えられるため。(糸魚川)

Q2

ネットワーク構築では、どのような点に苦労しましたか？

ネットワーク構築についての知識がないため、何がどれだけ必要なのか、そして、それらがたとえば「全部で500万円です」と言われたとき、高いのか安いのか分からない。必要経費として費用を鵜呑みにしなければならぬ勇気が必要だった。介護施設がシステムの導入を検討するとき、社員に勉強させて専門の担当者を養成するのは現実的ではなく、メーカーの協力が必須と考える。(糸魚川)

Q3

使い勝手はどうですか？

センサーマットを使った経験はあるとはいえ、オープンするまでは「本当にそこまでわかるのか？」と疑問暗鬼だったが、今はその不安はない。また、スマホは直感的に使えるようにできているので、60代のヘルパーさんも難なく使いこなせている。入居者の体動や睡眠のリズムがよく見えるのが実感でき、訪室を2時間おきに行う必要がないなど、同様の施設と比べれば負担感が少ないと感じる。(江本)

事業所データ

株式会社礎
医療・介護特化型サービス付き
高齢者向け住宅「わらい」

埼玉県越谷市大里 173-1
TEL: 048-971-5322
http://www.ishizue-c.jp/



ココヘルバVcamやまもる~の、aamsのデータはすべて事務室のパソコンに集約される

で入居者のベッド上の動きや睡眠、呼吸、室温などをモニタリングします。ココヘルバVcamは、呼び出しボタンとともに室内にカメラが設置されているのが特徴です。呼び出しボタンが押されると、職員が持つ専用のスマートフォンに部屋の映像が映し出され、それを見ながら対応できます。

江本 入居者や室内の様子が見えるので、緊急性が判断できます。あらかじめ必要なものを用意して駆けつけることもできます。——それぞれが集めたデータは、パソコンのデータベースに蓄積される。糸魚川 「夜間8時から朝5時までの時間帯に20回ナースコールを押しました。そのうち用がなかったのは15回。トイレの介助をしたのが5回です」と、入居者の過ごし方を具体的に家族に説明できるようにになりました。これにより、説得力に裏打ちされたサービスが推進できるのではないかと考えています。

開設後3カ月で2人を看取る
——「わらい」は医療依存度・介護依存度の高い入居者を積極的に受け入れている。実際、入居者の要介護度の平均は3・2と高く、開設から約3カ月で2人の看取りを行った。糸魚川 ナースコールを自力で押せない方もいるので、オプションで準備しているaamsで対応しています。リアルタイムで心拍数や体動、呼吸数などを検知し、その情報はパソコンに送られ、異変があるとスマートフォンに通知されるので、すぐ部屋に駆けつけ

られます。江本 メーカーの協力のもと、「わらい」版のシステムを築きました。今のところデータを時系列でしか表せないのですが、次のステップでは特定の現象だけのデータを取り出せるようになることなども期待しています。糸魚川 介護現場は機器の能力を、メーカーは現場のニーズをよく理解していないという課題が出ました。お互い手探りで、実際に使いながら検証しているというのが正直なところですが、現場の声をメーカーにフィードバックし、より良い製品開発につなげていただきたいと思います。

ポイント3

停電時の対応

停電するとパソコンはすべてシャットダウンし、システムも稼働しなくなる。その際は当然重篤な入居者を中心に頻りに部屋に訪問する必要がある。システムはあくまでサポートであり、日ごろの職員研修は欠かせない。

ポイント2

人材確保

医療・介護特化型はスタッフの負担が大きいというイメージがある。通常のサ高住のヘルパーより負担が大きくなるのは事実。それでも、「安全管理システムを備えた施設だから動いてみたい」と入社してきた職員も多い。実際、ココヘルバVcamなどで負担が軽減されているので、職員確保の方法としても有効だと考えている。

ポイント1

効果

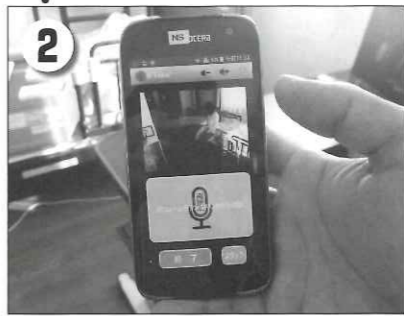
見守り機能があることによって、数分で駆けつけられることができ、「2時間ほったらかしの状態だった」ということが起きない。体調が悪くなると呼吸や睡眠状態に変化が表れるので、早めに医師につなげることも可能。看取りの局面では、aamsがあることで状態の変化に素早く対応でき、2組のご家族に最期の瞬間に立ち会ってもらったことができた。データを示すことで説得力のある説明が可能になったのも大きい。



室内には見えない箇所にあちこちセンサーが忍んでいる



- ココヘルバVcamは利用者のベッド周りなど、必要に応じてアングルを調整可能
- 利用者がナースコールを押さない限り室内の様子は映らず、プライバシーが守られる
- まもる~の本体はベッドの裏の目立たない場所に置かれている。なお、センサーはマット下に設置



株式会社礎が昨年11月に開設したサービス付き高齢者向け住宅「わらい」は、「医療・介護特化型」のコンセプトのもと、ICTを活用した最新の安全管理システムを導入している。江本 睡眠見守りセンサー「まもる~」(ASD株式会社)と無線式コールシステム「ココヘルバVcam」(ジーコム株式会社)を41部屋全室に設置しています。また、重篤な状態の入居者向けに「マット型センサー」(aams)株式会社バイオシルバー)をオプションで用意しています。糸魚川 まもる~のは、ベッドに設置したセンサー

全室にセンサーとナースコールを完備



初めての介護ロボット

株式会社礎
医療・介護特化型サービス付き高齢者向け住宅「わらい」
入居者の動静を可視化するシステムで
スタッフの負担軽減と重度対応を実現

2限目の講師

株式会社礎
医療・介護特化型サービス付き
高齢者向け住宅「わらい」
江本幸子(施設長、株式会社礎
執行役員)【左】
糸魚川恒(株式会社礎執行役員、
理学療法士)【右】



江本施設長の知ってほしい導入ポイント